日本聖公会
大阪教区報

日本聖公会
大阪教区教務局
〒545-0053
大阪市阿倍野区
松崎町2-1-8
TEL 06-6621-2179
FAX 06-6621-3097
発行責任者
教務局長　司祭　原田光雄

〈HP〉 http://www.nskk.org/osaka/index.htm　〈e-mail〉 office.osaka@nskk.org

第404号　2008年12月21日発行

美しい時節、主とともに

執事　パウロ　井上　進次

晩秋―いい響きの言葉です。この晩という言葉は秋にしか使われませんが、過ぎ去った秋を振り返りながら、残り僅かの秋を静かに愉しむといった風情があります。

冬仕度―これも冬にしか使われません。仕度するのですから、身を引き締めて冬を迎えることなのでしょうか。晩秋、冬仕度。今まさに私たちはこの時季を迎えながら、アドヴェントを過ごしています。

私は六甲山の北側、紅葉の名所・有馬温泉近くの自宅から、月～土は大阪市内の職場（プール学院中高）に通っています。11月に入りますとさすがに出勤・帰宅時は真っ暗で、家の周りの山々の紅葉は知る由もありませんが、週に唯一、日曜日だけは家を出る時は夜が明けていて、車で六甲山のトンネルを抜けて西宮聖ペテロ教会に向かう車窓では、銀杏、楓、モミジ等の錦繍が彩とりどりに心を和ませてくれています。

さて、去る10月19日、皆様のお祈りに支えられ、新しく着任された大西主教様から執事の按手を受けました。紙面をお借りして、ご報告とお礼申し上げます。先日、その大西主教様をお迎えして、ペテロ教会では洗礼・堅信式が行われました。主教様にとっても、ペテロ教会へはじめての巡錫日で、ご夫妻の歓迎愛餐会も行われました。

私はこの日、普段より少し早めに教会に到着しました。ふと、いつもはあまり気が付かないのですが、木々に囲まれた礼拝堂の前が、落ち葉で一杯になっていました。折角の洗礼・堅信日、また主教様の歓迎会の日でもありましたので、一人せっせと箒で落葉を掃いておりました。すると、教会の奥司祭が通りながら、「きりがないから、適当に掃いてくれたらいいよ」と仰いました。が、私も執事となって、張り切っていたのかも知れません。一通り片付けようとしていると、司祭の「この景色もいいものよ」という声が聞こえてきました。

この時私は、一生懸命見栄えを取り繕う自分の姿に気づかされました。確かにお持て成しの心というも大切です。雨に濡れた落ち葉は滑りやすく、掃いておく方がよかったとも言えます。でも、秋になれば木々の葉は落ち、やがて冬を迎える……、このありのままの姿でお客様をお迎えすることが出来たら、それは素晴らしいことだと思います。そしてそれこそがアドヴェントの過ごし方に通じるのではないかと思いました。

ありのままの自分でイエス様のご降誕を待つ。イエス様がお産まれになった馬小屋は、干草や糞などが散在していて、とても整然とはしていなかったことと思います。でも、そこにイエス様は来られたのです。

今日も、教会の敷地には落ち葉の絨毯が敷き詰められていることでしょう。それが、これから４本のロウソクが順に灯され、いよいよクリスマスを迎える時に、真っ白の絨毯に変わっていれば、何と素敵なクリスマスではないかと思います。

（いのうえ　しんじ・プール学院中・高チャプレン、西宮聖ペテロ教会牧師補）

大阪教区第100定期教区会

大阪教区第100定期教区会は11月24日（月・休）午前9時から主教座聖堂・川口基督教会で行われ、大西主教司式の開会礼拝・聖餐式につづき、同10時から議事に入った。開会祈祷に続き、開会のあいさつに立った大西主教は、主教按手式・就任式、それに続く祝賀会に対し感謝の言葉を述べられた後、主教就任後約2カ月、毎主日各教会を巡回しており、来年3月上旬には、全教会を一巡出来る予定であるとし、和解と信頼関係の回復を基調とした協働関係の確立を呼びかけられた。午前は、常置委員会報告、教務局報告、各種委員会の報告が承認され、諸学校、諸施設関係チャプレンの報告があった。午後には議案審議があり、２００９年度一般会計予算案と台湾聖公会との宣教協働関係の継続が議決された。常置委員会選挙では聖職委員に岩城聰、福田光宏、竹内信義の各司祭が、信徒委員には佐野信三、槻本邦夫、畑野めぐみの各氏が選ばれた。議会は順調に進行し、午後3時には閉会した。

（編集部）

大西主教の開会あいさつ

愛と赦しを基調とした協働関係の確立を

主教就任後約2カ月、毎主日各教会を巡錫しておりますが、来年3月上旬には、全教会を一巡出来る予定です。また、教区と関わりの深い諸施設への訪問も順次させていただいております。1日も早く大阪教区の一員として皆様方との親しい交わりの輪を広げていけるよう努力してまいる所存です。教区の教勢また財政については、報告・議案の最後にある資料編をご覧になれば、概略お解かりいただけるかと思いますが、ここ数年来、横ばい状態が続いております。現在受聖餐者数が２０００名を割り、1主日の平均陪餐者数は８００余名という現状です。教会にも高齢化の波が押し寄せてきており、この波をどのように受け止めて進んでいくのかがこれからの重要な課題であります。財政面においてもこの状況が大きく反映しています。

開会演説の大西主教

さて、わたしたちが宣教課題を考えていく時、各個教会の宣教課題は教区の宣教課題であり、ひいては日本聖公会の、そして世界の聖公会の宣教課題であるといえるのではないでしょうか。その意味で教会間の協働、教区間の協働の必要性が強く求められるのであり、さらにはそれを越えたエキュメニカルな協働関係も大切になってくるのであります。

しかしながら、それらの根底には、キリストにある愛と赦しを基調とした信頼関係がどうしても必要であります。今夏のランベス会議は世界の聖公会の大半の主教たちが多くの困難を抱えつつも、それぞれの違いを認め、理解し合うために、胸襟を開いて語り合う時が最も大切な時として位置付けられ、それなりの成果があったと評価されています。

当教区においても、教役者同士と信徒同士、教役者と信徒相互間の和解と信頼関係の回復がまず第一になされねばなりません。真の信頼関係の上に築かれたものは、絶えず補強され更新されて、より確かなものへと成長していきます。心の奥にわだかまっている偏見や先入観を捨てて、相手としっかり向き合って話し合い、それに聴くことからしか、事は始まらないのではないかと思います。

具体的な事柄を取り上げるには時期尚早の誹り（そしり）を免れませんので、現段階における雑駁（ざっぱく）な所感を述べさせていただきました。

大西主教の就任後 初めての教区礼拝 井上進次執事 誕生

10月19日、プール学院中高（勝山キャンパス）のチャペル「清心館」において、サムエル大西修主教就任後初めての教区礼拝が行われた。式典長は福田光宏司祭。また、今回の教区礼拝は、プール学院中高のチャプレンを務める井上進次聖職候補生の執事按手式として位置づけられ、聖書日課や聖歌も執事按手式にふさわしいものが選ばれた。清心館は約530人の出席者の熱気で一杯になった。

井上進次執事誕生

大西主教の説教は、別掲の通り。

教区の現役教役者が勢揃いして壇上に上がったが、それ以外にも礼拝奉仕者として多くの神学生、青年が活躍した。また、退職聖職も参加され、文字通り教区挙げて、新主教の就任と新執事の誕生を祝った。

「派遣」の前の報告で、プール学院関係者およびその他の来賓の紹介、礼拝奉仕者の紹介、大西主教の挨拶、井上新執事およびそのご家族の紹介、お祝いの言葉などがあり、参加者全員で喜びを分かちあった。井上新執事は、主たる派遣先であるプール学院中高でチャプレンとして日々生徒たちと向き合っている様子を述べ、学校の中で神さまの愛を伝える仕事の大切さを強調され、公会の執事としての決意を力強く語られた。また、大韓聖公会から宣教協働者として大阪教区に来られ、大阪聖ヨハネ教会でご奉仕いただいているチョウ・ジョンピル執事が司祭試験のために一時帰国されるという報告があり、参加者全員で拍手で激励した。（なお、チョウ執事は司祭試験に見事合格され、来年、司祭按手を受けられることとなった。）

礼拝終了後、清心館で全員の写真撮影があり、カフェテリアやその他の場所で、昼食を囲んでの歓談風景があちこちで見られた。また、午後からは教区宣教部主催の「夏の諸行事報告会」が行われ、教区青少年キャンプ、全国青年大会in沖縄、沖縄週間「沖縄の旅」、ランベス会議スチュワード、日本聖公会「人権セミナー」、広島平和礼拝などの報告が行われた。

（教区礼拝副式典長　司祭　岩城　聰）

大西修教区主教の説教

信仰をもって今を生きるわたしたち

主よ、わたしの岩、わたしの贖い主、わたしの言葉と思いがみ心にかないますように。

本日ここに、私が大阪教区主教に就任して初めての教区礼拝を、信徒・教役者の皆様方と共にお捧げ出来ますことを大変嬉しく思います。そしてまたこの時、パウロ井上進次聖職候補生が公会の執事の職に按手されることも大きな喜びであります。

教区礼拝が1年に1度行われると聞いていますが、これができるのは東京教区と大阪教区くらいではないでしょうか。わたくしがおりました中部教区では、愛知、岐阜、長野、新潟の4県から一カ所に集うには、少なくても1泊2日の日程を必要としますので、多くの信徒にとっては出席が大変困難なため、5年か10年に1度教区礼拝が行われればよいほうでした。ですから、それが実現した時は、ことのほか、大きな喜びがありました。

それに比べますと1年に1度教区の皆様が一堂に会して、主に感謝賛美をささげる礼拝ができる大阪教区は、本当に恵まれていると思います。さらにすべての教会の皆様の立合いのもとに聖職按手式が行われる機会は滅多にありませんが、本日それが実現しました。

按手をお受けになる井上聖職候補生にとっては勿論のこと、わたしたち大阪教区の者にとっても今日は本当に素晴らしい日、喜びの日であります。

さて、先ほど読まれましたローマの信徒への手紙は、パウロがローマの教会の人々に宛てて書いたものです。書かれてからすでに2000年の歳月を経ているとは言え、パウロの勧めは、キリストを信じる信仰をもって今を生きるわたしたちに対しても、その生き方を今一度振り返るようにと、語りかけているのではないでしょうか？

（執事按手の）試問の最初にありますように「わたしたちは主にある交わりをともにし、キリストの体として、主のみ業にあずかり、これに奉仕するように召されています。」

（次ページにつづく）

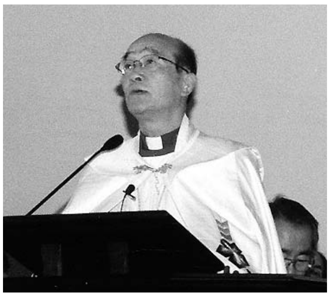
（前ページよりつづく）

「仕えられるためではなく、仕えるために、また多くの人の身代金として自分の命を献げるために」この世に来られたキリストを模範として、生きることが求められています。

　とりわけ、聖職に召される者にとっては、主に従い、主と人々に仕える者として主によって生かされ、用いられていることを、日々心に留め、祈りのうちに覚え、聖霊の導きをひたすら求めていかなければなりません。

　聖職として神と人々に仕える生活を始める時、まず第一に大切なことは、「聴く人」へと自らが変えられていくように祈り求めることであります。聖職はしばしば「聴く人」であることよりも、「語る人」になっているのではないだろうか、語ることが先行しているのではないだろうか、そのようにわたくしは今、自分自身を顧みております。

　これまで聖職として歩んできたささやかな経験を通して、「親身になって聴く人になること」「真心と誠実さをもって聴く人になること」の大切さを痛感させられております。



説教する大西修新主教

　「どうせ先生に話しても聞いてもらえないから」あるいは「お忙しいので、先生を煩わせては申し訳ないから」、そのように話したい人、話を聞いてもらいたい人に思われているとしたらこれはゆゆしき問題です。

　幼子サムエルが祭司エリに教えられ、「主よ、お話しください。僕は聞いております。」と答えたように、まず「聴くこと」から、主と人々の言葉に耳を傾けることから、仕える者としての働きが始まります。聴くことは真に相手を理解すること、知ることへとつながっていきます。相手に聴くことなくして語った言葉は、空しく自分にかえって来ることが多いのではないでしょうか。主と人々の言葉に耳を傾けることを通して語られる言葉は、人の徳を高めるものとなります。人に生きる意味と喜びを与えます。

　第二は、自らの過ちや非を謙虚に認め、主のみ前に懺悔し、人々に対して許しを乞うことに潔くあることであります。人々との和解へ向けての努力を惜しまないこと、主に赦され、愛され、受け入れられ、今ここに生かされていることへの感謝を忘れないこと、これこそ、聖職として遣わされる者にとって重要なことであります。

　「牧師なのだから、聖職なのだから、そうあってほしくはない。」そのような信徒の皆さんの切なる願いに反して、残念ながらわたくし自身も聖職として歩んできた日々の中で、数多くの過ちや罪を犯してしまい、聖職に対する信徒の皆様の信頼を裏切ってしまったことも幾度かあったことを告白せざるを得ません。しかし、主はそのような欠点の多い、弱く、頼りない者をもお用い下さることを信じる時、この重い任を負うことが許されるのではないかと思うのです。人が人を信頼できるか否かは、過ちを犯さず、欠点がないからではなく、過ちや欠点を謙虚に認め、そこに立って神との和解、人々との和解へ向けての道を歩んで行こうと努力しているかどうかによるのではないでしょうか。

　大阪教区の歴史はC・M・S（英国聖公会宣教協会 The Church Mission Society）の働きによって始められました。そしてそのC・M・Sの働きは信徒を育ててきたと言われています。聖職はその良き伝統を受け継ぐ者としての重い役割を担っています。

　さて、第三に、聖職の働きは多くの教会の教役者、信徒の祈りによって支えられていることを覚え、日々の祈りのうちに感謝を絶やさずに働くこと、研鑽を積むこと、そしてまた、同労の教役者、主にある信徒の方々を祈りのうちに覚えることであります。

　現在、大阪教区には4名の神学生が聖職志願をし、神学校で学んでおります。京都のウイリアムス神学館のジョイ千松清美神学生、ジョージ林正樹神学生、東京の聖公会神学院のヨハネ古澤秀利神学生、クリストファー奥村貴允神学生であります。4人を覚えて、これからも信徒教役者が一つになって祈りの輪を広げてまいりましょう。

　また、現在大韓聖公会ソウル教区に派遣され、大阪聖ヨハネ教会で宣教、牧会の働きをして下さっているチョウ・ジョンピル執事（聖職籍はソウル教区）は、来る10月30日ソウルにおいて司祭試験を受けられます。どうぞこのためにもお祈りに下さい。

　「良い教区・教会は良い聖職を生み出し、良い聖職は良い信徒を生み出す」と言われています。私たちの教区が聖職・信徒の主にある良き交わりのなかで、霊的にもさらに成長していくことができますよう、共に祈ってまいりたいと思います。最後に使徒書のみ言葉をもう一度聞きましょう。

　「心を新たにして自分を変えていただき、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようにしなさい」（ローマ12：2）。

教区関係教役者

逝去者記念聖餐式

◇１月14日（水）午前11時
　於　主教座聖堂（川口基督教会）
　説教者　木村幸夫司祭

宣教師　ヘンリー・ラニング（1917.1.1）
司　祭　デイビッド・マーシャル・ラング（1946.1.1）
司　祭　ウイリアム・ロイストン・グレイ（1950.1.1）
主　教　ウイリアム・オードリー（1910.1.3）
司　祭　河合　尭三（1939.1.3）
司　祭　ヨセフ　側垣　基雄（1965.1.12）
司　祭　ギデオン　小川　博司（2002.1.12）
伝道師　三木　八十五郎（1918.1.13）
司　祭　パーシー・A・スミス（1960.1.15）
伝道師　寺本　房吉（1960.1.15）
司　祭　ペテロ　宇野　秀太郎（1944.1.19）
主　教　アーサー・リー（1958.1.19）
伝道師　今泉　頴子（1970.1.19）
司　祭　ヒカル　柳原　光（1994.1.20）
司　祭　久永　光雄（1937.1.21）
主　教　ペテロ　松本　寛一（1980.1.22）
執　事　卜部　徳太郎（1933.1.25）
執　事　バルナバ　寺沢　久吉（1945.1.30）
司　祭　山下　有任（1903.1.?）

◇２月11日（水）午前11時
　於　主教座聖堂（川口基督教会）
　説教者　磯晴久司祭
宣教師　エルザ゛・M・キーン（1949.2.1）
司　祭　トマス　佐藤　時雄（1989.2.3）
司　祭　バークレー・フォーウェル・バクストン（1946.2.5）
宣教師　フランシス・エドワード・ハモンド（1932.2.8）
司　祭　祖山　達三（1941.2.10）
司　祭　皆川　晃雄（1952.2.10）
宣教師　フローレンス・マリアン・ファジル（1956.2.10）
伝道師　マリア　奥田　ヤス子（1949.2.13）
司　祭　J・ハミルトン・クィンビー（1882.2.14）
司　祭　ステパノ　久保　登知雄（1981.2.16）
司　祭　ジョージ・ヘンリー・ポール（1929.2.17）
伝道師　小橋　かつえ（1964.2.19）
司　祭　ヨセフ　松岡　安立（1972.2.20）

＊教役者逝去記念聖餐式は、毎月第2水曜日午前11時から、主教座聖堂川口基督教会で行われます。ご関係の有無にかかわらず、どうぞ自由にご参加のうえお祈りください。

2008年度 教区婦人会 秋の修養会

「こどものとも」初代編集長

松居直先生のお話を聞く

牧口　眞理

初秋の10月4日、秋の修養会が東豊中聖ミカエル教会で行われた。

講師は、月刊絵本「こどものとも」の初代編集長であり福音館書店相談役である松居直（まつい　ただし）先生で《高齢化社会と子どもの絵本》をテーマに話された。

松居先生は言葉をゆたかに聴くことの喜びを親しみやすく語られた。

『絵本を読み聞かせるとき、子どもは絵を読みますね。絵は全て言葉ですから！子どもは目で絵の言葉を読みとり、母親の声で文の言葉を聴き、そこで初めて〝絵本を読む〟んですね。そのとき、母親の声の調子、手の動き、表情（うたた寝の!?）、温もりなどが重なり合って、子どもの心に豊かなものを残していく。こういう言葉の体験の中から、言葉が豊かに蓄えられて、語る力、生きる力になっていくのです。

また、今、お年寄りが子供たちに昔話をしてあげること、若い人達がお年寄りに絵本を読んであげること、とっても大切ですね。おなじ言葉を共有して、いのちを感じあいながら…、ぜひお願いしたい。』

今、高齢化社会にあって、孤立を余儀なくされつつあるお年寄りたち、聴く言葉の体験、物語体験が失われつつあるという子供たち。人と人の心を繋げるいのちの言葉が求められている。

講演終了後、翌日に誕生日をお迎えになる松居先生に会場の170名からバースデーソングをプレゼント。

「82歳！」年齢を感じさせないその居住いに感嘆！！

その後、5教会のバザーが催され、東豊中聖ミカエル教会婦人会の方々による美味しい茶菓のテーブルも調い、初秋にふさわしい気持ちのよい午後となった。今回、この会をお世話して下さった東豊中聖ミカエル教会の皆様に感謝いたします。

（まきぐち　まり・石橋聖トマス教会信徒）

大阪教区教会巡り⑰

婦人救済の中から生まれ、児童と共に歩む

――聖ルカ教会

聖ルカ教会は児童養護施設「東光学園」の敷地内中央に位置しています。教区内で最も小さい教会ですが発祥は結構古くなります。その誕生からおもに「東光学園の歩み創立60周年記念」誌を参考に簡単な歴史を紹介します。

ジャパン・レスキューミッション

大正初め、英国の宣教師ジョージ・デンプセイは日本伝道隊の招へいにより有馬聖会の講師として来日、日本の婦女子の悲惨な状況を見て、帰国後、婦人救済事業の設立運動を起こします。再来日したデンプセイは、大正9年東京大久保にて婦人救済事業を運営していた「慈愛館」を支援、財団法人「ジャパン・レスキューミッション」を発足します。同12年関東大震災により宮城県仙台市に「救愛館」を建設、婦人救済と乳幼児の保護を始めます。昭和3年乳幼児の増加に伴い、仙台市内に「ベラカ女児園」を開設。東北地方を襲った冷害による凶作のための女児の身売り防止などにも努めました。その間にもデンプセイは伝道活動を行い、沢山の人が信徒となり、その中に当時中学生であった木川田正毅も導かれ洗礼を受けています。その後、木川田正毅はウェールズに留学、司祭となりました。また同2年大阪中之島に婦人救済相談所を開設、関西での活動を開始。同7年、現在の堺市土塔町に土地を購入、「慈愛館」と称し婦人の保護収容を開始。仙台の救愛館の近辺が過密になり目的を達するに不適当と判断、同11年仙台の「救愛館」の土地建物を売却、収容者を「ベラカ女児園」と大阪「慈愛館」に移動しました。「慈愛館」は収容者を守るため高い塀で囲まれていましたが、時には救済された女性を取り返そうという暴漢が施設内に侵入し、宣教師や職員が負傷、教会内のオルガンの陰にかくれた収容者を発見できずに去ったということもあった様です。

超教派から聖公会へ

カナ文字名称改正と旧教か新教の教団に属することを要請されたため、超教派であったデンプセイ以下、多数の宣教師・職員ともに日本聖公会に属することを決断します。同13年「慈愛館」内にあった礼拝堂を「日本聖公会聖ルカ教会」と改称、同14年1月25日には、川口基督教会にてデンプセイの執事按手式が行われています。その後国際状勢の急変により同15年ミッションを解散、同16年デンプセイを始め、ともに働いた宣教師達はそれぞれ母国に引き揚げました。同時に名称を（財）東光学園に改め初代園長に木川田正毅司祭が選ばれます。同17年軍部の要請に従い、収容者を「弘済院」と「博愛社」に移動させ、やむなく施設を明け渡します。終戦を迎え同21年、施設の返還に伴い、戦災孤児を中心とした児童保護施設として再開、同27年「社会福祉法人東光学園」に組織変更しました。時には、いわゆる戦争花嫁と呼ばれたインドネシア、マレーシア等からの婦人やその子供達も収容して感謝されました。その活動を支えてきたのは、教会の存在であり、また多くの国内外の物心による支援であったと思います。戦後実に多くの子供達が木川田司祭から洗礼を受けています。卒園して数十年を経て教会を訪ね信徒となり活躍する人もあり、若いうちに信仰の種をまくことの大切さを実感します。また同27年、堺市金岡にあった米軍の基地内病院で秘書として働いていたMrs　A・リードが教会を訪ね、東光学園にボーイスカウトがあり少年達は活発に活動しているが、少女達のための活動がないことを知り、米国カリフォルニアでのGFS（ガールズ・フレンドリー・ソサエティ）を紹介し、学園内で少女達を集め活動を始めます。物資の手に入りにくい時代、米国の教会から毛糸や

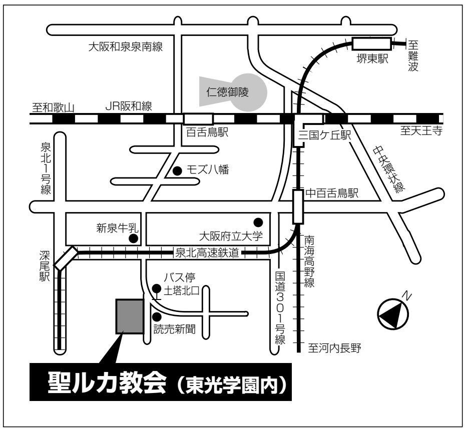
創立者デンプセイ宣教師

布・糸等を送ってもらい、少女達に編み物や刺繍を教え、病院を見舞ったり、乳児院を訪問させました。すでに京都の平安女学院に「愛友会」と称した学校内での活動としてＧＦＳがありましたが、教会内での活動としてはMrsリードが聖ルカ教会で始めたものであり、大阪教区内にも一時10近くの教会に支部がありました。現在、北海道から沖縄までほぼすべての教区にＧＦＳが存在するきっかけを作ったのは聖ルカであると力を与えられています。

現況

平成２年、木川田正毅司祭が逝去、現在は原田光雄司祭の管理のもとにあり、第１週は松岡慶一司祭が聖餐式を、第３週は信徒で朝の礼拝を守っています。第１週には児童礼拝があり、多い時には１００人を超す学園の子供達で礼拝堂は溢れます。クリスマスイブにはキャンドルライトサービスがあり子供達のハンドベルの演奏などもあってとても楽しみにしているようです。また、毎月第２土曜日午後は学園内でＧＦＳの集まりを約10年続けておりクラフト作りや手芸などをして子供達と楽しんでいます。数年前から教区婦人会の協力を得て、子供達を指導して下さり大変助かっており、子供達も楽しみにしています。

毎回の礼拝は５人ばかりの出席で、それぞれが大きな役割を担い誰が欠けても進行しない状況にあります。時に来会下さる方があると聖歌の歌声が大きくなり、力が与えられる思いがします。お訪ね下さり聖餐の喜びを増し加えていただければこの上ない幸せと思います。（教会委員会）



心を躍らせ！　体を動かし！

第6回 成年会（なるねんかい）

いっしょに歌おう！ゴスペル♪

プログラムリーダー；坂本真紀（大阪聖パウロ教会信徒）

子どももいっしょに！

日時：**2009年1月12日**（月・祝）10:00～17:00
場所：**大阪聖パウロ教会**（阪急梅田駅下車すぐ）
大阪市北区茶屋町2-30

申し込みお問合せ先；
大阪聖パウロ教会　tel（06）6371-0170
真継穣・佐和　e-mail; lingua1017@hotmail.co.jp

＊ご案内の詳細については、各教会へ配布しています。

教区の動き

常置委員会報告

10月10日（第13回定例）

協議事項

1. 前回議事録を承認した。
2. 9月度一般会計収支決算報告を受け、承認した。
3. 藤江司祭から出されていた「退職願」を10月1日付で許可したとの主教報告を了承した。
4. 三重県菰野にある大阪教区所有地の現状について、主教と常置委員で実地検分する。
5. 教区会の準備に関わる諸問題について協議した。

11月5日（第14回定例）

主教報告

1. 主教会において大西主教の役割が次のように決められた。

○管区（日本聖公会第57（定期）総会期）
・女性の司祭に関わる諸問題について調整する委員会
・教区間協働担当デスク担当主教
・部落問題に取り組むキリスト教連帯会議担当
○主教会関連施設
・聖公会神学院評議員
○主教会内部分担
・日本聖公会婦人会担当
・日本聖公会社会福祉連盟（会長）

2. 大阪教区から、以下の者が日本聖公会第57（定期）総会期管区諸委員に選出された。

・神学教理委員会　司祭　岩城　聰
・正義と平和委員会　司祭　岩城　聰
・女性の司祭に関わる諸問題について調整する委員会　司祭　齊藤　壹
・年金委員会　司祭　原田光雄
・収益事業委員会　司祭　竹内信義
・エキュメニズム委員　司祭　岩城　聰

・管区共通試験委員会
司祭　福田光宏（長）、
司祭　岩城　聰、
司祭　山本　眞

・教理礼拝組織調査委員
司祭　山本　眞（教理部）、
司祭　内田　望（礼拝部）

3．ＮＣＣ（日本キリスト教協議会）の第36回総会期委員として、宣教奉仕部門（都市農村宣教委員会）に司祭原田光雄が選出された。

協議事項

1．前回議事録を承認した。

2．10月度一般会計収支決算報告を受け、承認した。

3．井上執事を執事按手式が行われた10月19日付で西宮聖ペテロ教会牧師補に任命するという主教の諮問に同意した。（11／5）

4．第１００（定期）教区会の開会礼拝の信施金奉献先を、「大阪教区神学生後援会」とすることに決定した。

5．大韓聖公会からの宣教協働者・チョウ・ジョンピル執事に教区会議席を与えるとの主教の意向に同意した。

6．信徒代議員の補欠（代議員変更届）の問題について、法制委員会に検討を付託することにした。

11月24日（第1回定例）

第１００（定期）教区会終了後に開催し、常置委員長に竹内信義司祭、書記に岩城　聰司祭をそれぞれ互選した。

教会・施設の動き

東豊中聖ミカエル教会

○恒例のチャペルコンサート、今年は11月16日に、リコーダーアンサンブル・デブタンの皆様による演奏で、ハレルヤ・コーラス、水上の音楽など美しいハーモニーを味わった。

芦屋聖マルコ教会

○12月7日（日）午後、信徒の研修を開催、弁護士さんを招いて、裁判員制度について学びました。

聖ルシヤ教会

○11月2日逝去者記念礼拝の後、和泉メサイア合唱団によるチャペルコンサートがあり、モーツアルト「レクイエム（死者のためのミサ曲）」他に聞き入った。

大阪聖ヨハネ教会

○11月9日恒例のバザーを開催しました。近隣の方々も大勢参加してくださって、交流の一時を持つことができました。

○11月23日には主教ご夫妻が、当教会に来られて、親しく話をすることができました。

○11月29日は男子会主催のハイキングで、大山崎山荘美術館及び天王山コースを歩く。

○11月毎主日子供の祝福式を行った。

第１回

オールター・ギルド研修会

日時：2009年3月29日（日）2:00〜4:30

場所：川口基督教会

入門編です。始めから習いたい方、
関心ある方、どなたでもご参加ください。

大阪教区／礼拝・音楽委員会

祝受洗

東豊中聖ミカエル教会
リーラ　杉田智恵子

川口基督教会
バルナバ　横内孝汰
マーガレット　ヒューム亜咲美
フランシスカ　伊藤直子
モーリス　北川誠康

石橋聖トマス教会
マリア　井脇久子
トマス　原槙正則

祝受按

東豊中聖ミカエル教会
リーラ　杉田智恵子

川口基督教会
フランシスカ　伊藤直子
モーリス　北川誠康
ミカエル　斎籐　悠

聖贖主教会
アンデレ　眞子義人

魂の平安を祈ります

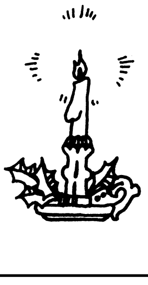
芦屋聖マルコ教会
グレース　德永嘉榮子（11月22日・94歳）

庄内キリスト教会
ハンナ　大野和香子（11月21日・92歳）

川口基督教会
ルツ　若井和子（11月8日・87歳）

石橋聖トマス教会
ヨハネ　茂木　充（11月3日・85歳）
トマス　原槙正則（11月5日・54歳）
ロイス　片山芳子（11月22日・88歳）

大阪聖三一教会
テモテ　吉井清達（7月7日・85歳）

お詫びと訂正

４０３号で大西修主教の主教按手式に来賓として出席されたカトリック大阪大司教区・池長潤大司教のお名前が「池永潤」と誤っていました（2、7頁）。お詫びし、訂正いたします。